

腰痛

転倒



社会福祉法人 若山会 特別養護老人ホーム 若葉苑



施設長
原田 PT

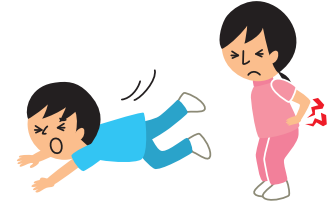


衛生管理者
姫野 氏

転倒災害や腰痛事例が生じたことから労働安全衛生対策に関わるようになる

労働衛生委員会による安全対策を実施していた

- 腰痛による労働災害の増加 ⇨ 理学療法士による腰痛対策を開始
- 施設内で転倒災害が発生 ⇨ 転倒防止対策も開始



実施内容

① 腰痛対策

朝礼後のスクワット 60 回
ノーリフティングケア、介助方法の指導
事務職員への座位姿勢等に関する教育研修

② 転倒対策

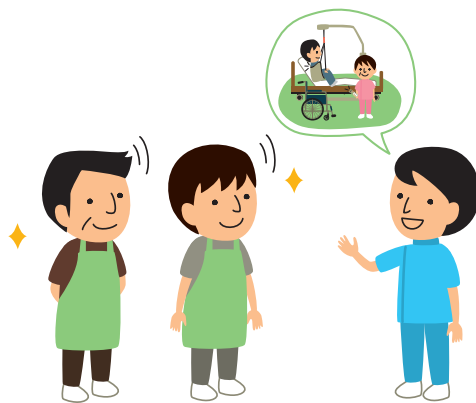
労働衛生委員会にて報告されたリスク要因
への対応（滑り止め、照明などの機器導入、
整理整頓など）

実施効果や工夫している点

受容のためには成功体験の積み重ねが重要！

ノーリフティングケアなどを
積極的に取り入れようとしない職員

- ⇨ 理学療法士がコーディネーターとして介入
- ⇨ 成功体験の積み重ね
- ⇨ 必要性が認知されるようになった

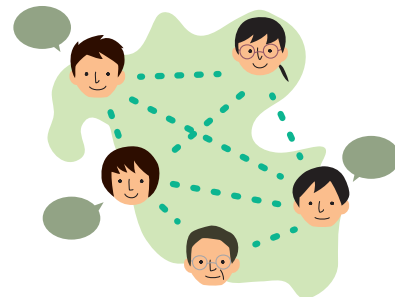


その他、COVID-19 対策のために参加職員を分割
し数回に分けて研修を実施。

研修は業務時間内に行えるように調整している。

行政や老人福祉施設協議会等に参画し、アピール
も行っている。また、情報を施設に持ち帰り、新
たな介護の質の向上を行っている。

大分県内での横の繋がりがとても有用と感じる。



理学療法士へ向けたメッセージ

ケアは毎日のことなので、職員のストレスは当然ありますが、各職員の身体の状況を長期的に鑑みて対策を行っていく必要があると思います。